



Create the Future

～できる。をひろげる～

創造する科学を通じていのちと自然を守り育てます



化学研究所「Shimizu Innovation Park / SHIP」

クミアイ化学を知るための数字

設立年



1949年

設立から70年以上にわたり農業事業に適進。2017年からは化成事業を第2の柱と位置づけ、成長力を強化しています。

売上推移(連結)

(2010~2026年度推移)



2010年度から連続売上増を継続中。2019年度には大台の1,000億円を突破し、その後も着実に成長発展を遂げています。2026年の売上高目標は、1,850億円です。

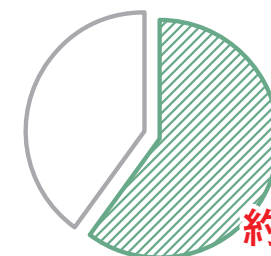
新農業を 開発できる 確率



新農業1剤を開発できる確率は一般的に「16万分の1」とされていますが、当社では、「7,500分の1」という極めて高い確率を実現しています。

1/7,500

海外向け売上比率



約60%

積極的な海外展開に取り組んでおり、真のグローバル企業として確かな実績を築いています。

「独自技術で豊かなくらしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献するフレキシブルで存在感のある企業グループ」の実現を目指し、私たちは飽くなき挑戦を続けています。

🌐 コーポレートサイトに関連記事があります。

<https://www.kumiai-chem.co.jp/company/about/>



TOP MESSAGE

個の幸せを、地球規模の幸せへ

クミアイ化学は、1959年に国産第一号の農薬を市場に提供して以来、世界の農業の発展に貢献し、安全・安心な食料の安定生産を支えるため、安全で効果的な農薬の研究開発と普及に力を注いでまいりました。

世界人口の増加や地球環境の変化など、社会全体がさまざまな課題に直面する現在。クミアイ化学グループは、科学の力で安全・安心で豊かな社会を実現することを目指し、世界の食を支える「農業及び農業関連事業」と、生活の多彩なシーンでQOL向上に寄与する「化成品事業」を両輪として歩みを進めています。

2023年10月には、さらなる研究開発体制の強化を目的に、これまで創薬、製剤、プロセス開発と3つに分かれていた化学系の研究センターを統合した化学研究所「Shimizu

Innovation Park/ShiP」の本格稼働を開始しました。異なる分野の研究者の声が入ることでさまざまなイノベーションを生み出し、農薬、化成品の枠を超えた新たな製品・技術、さらには新規事業を創出する場になるものと考えています。

当社グループでは、社員一人ひとりが夢に向かって「努力」し、「成果」を生み、その達成感・充実感によって「幸せ」になるというサイクルでさらなる拡大を目指す「『夢』と『幸せの三角形』」というスローガンがあります。このサイクルを個人レベルから地球規模にまで拡大させることで、社会貢献や環境対応にも資する当社ならではのサステナビリティ経営を実現できるものと確信しています。

私たちは、これからも持続可能な社会の実現につながる新しい価値の創出に飽くなき挑戦を続けてまいります。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
高木 誠

事業の2つの柱

農業及び 農業関連事業

生産者をはじめとする関係者の皆様との対話をもとに、長年にわたり農業の研究開発と普及につとめてきました。研究開発・製造・販売の全工程に関わり、「農作物」「使用者」「消費者」「環境」の4つの視点で安全・安心な製品を提供しています。



化成品事業

農業開発の過程で培った技術で、生活のさまざまな場面で活躍する高分子材料や電子材料、医薬品等の原料を開発・製造・販売しています。また、お客様のご要望に合わせた受託事業を行っています。

主要な製品



畑作用除草剤アクシーブ

当社の主力製品。優れた除草効果と安全性の高さで世界の食料問題解決に寄与。



水稲用一発処理除草剤

国内シェアはNo.1。水稲栽培の作業省力化に大きく貢献している。



ビスマレイミドモノマー

電子基板や航空機などに利用される樹脂の原料。供給量は国内トップクラス。



有機塩素化合物

国内首位の供給量で、海外メーカーに納入をしている製品も。

*2023年(公財)日本植物調節剤研究協会資料より当社算出

人と環境に寄り添うクミカのものづくり

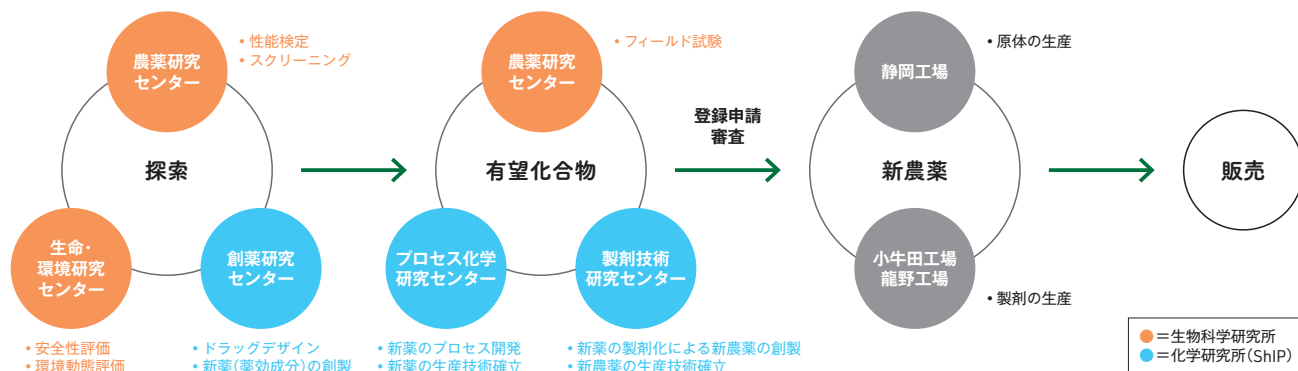
研究開発

化学研究所および生物科学研究所による、新規化合物の探索合成、生物評価、安全性・環境影響評価、製剤化、工業的製造法確立までの一貫した研究開発体制で、市場ニーズに即した独創的かつ高付加価値の新農薬の研究開発を行っています。

一般に評価化合物から新農薬1剤を開発できる確率は「16万分の1」とされますが、当社では「7,500分の1」という極めて高い確率を実現しています。その要因としては、生産者の要望や環境を正しく理解し、将来の市場を予測した製品開発を行っていること、さまざまな分野の研究者がチームを組んで開発を行っていること、一人ひとりの研究員のテリトリーが非常に広く、研究員レベルでの包括的な価値判断ができることなどが挙げられます。

近年大きく伸長しているグローバル市場に向けた製品開発においては、各国に試験・研究拠点を設置し、現地の自然環境や気候、顧客ニーズに最適化された製品の開発を行っています。

【研究開発の流れ】 創薬 生物評価 製剤 プロセス開発



化学研究所「Shimizu Innovation Park/ShIP」

静岡県内に点在していた化学部門の3研究所を創業の地・静岡市清水区に統合し、2023年10月より本格稼働した化学研究所「Shimizu Innovation Park/ShIP」。シナジーによりイノベーションを加速する拠点として、吹き抜けと大階段で結ばれた居室空間、最新・最先端の実験機器、再生可能エネルギーの利用等、先進的な設計が随所に盛り込まれています。



創薬

【新規化合物の構造探索】 創薬



生理活性を有する新規化合物の構造探索・合成が農業開発の出発点です。最新技術を駆使した化合物の合成や物理化学性の測定による薬剤挙動解析・予測を行います。

生物評価

【フィールドワーク】 生物評価



有望化合物が見つかったらポットや試験圃場で散布し、病害虫・雑草への効果や作物への安全性を試験します。評価結果の平準化を図るため、さまざまな条件下で行います。

Voice



常に先を見据え、想像力を働かせることが大切です

研究職(化学研究所)

農業の研究開発には10年以上の年月がかかります。未来の農業ではどんなことが必要なのか、常に先を見据えて想像力を働かせることが大切です。さらに当社の製品は、日本のみならず世界各国で使用されているので、「世界の食料問題に貢献する」という大きな使命感も日々感じています。最新の実験機器を備え、研究員同士の交流がしやすくなったShIPの稼働で、さらにモチベーションが高まっています。

調達・生産

当社の生産体制の特長は、工場と研究所が緊密に連携することで、実験段階からスケールアップした製造法を構築できる点です。これにより独自の生産技術で効率的な生産を実現するとともに、コストの削減にもつなげています。また、製造を外部に委託する際には、当社技術者が現場におもむいて指導を行うことで、高品質かつ安定した製品供給を維持しています。

原料調達については、日々変化する市場価格の影響を軽減するため、国内外のグループ会社や海外拠点をカバーするグローバルサプライチェーンを構築。原料の代替調達先を確保するとともに、生産拠点の分散化やグローバル展開に向けた生産体制の強化を進めています。

また、環境負荷に配慮した資材の検討や設備の導入、温室効果ガス排出削減対策を進めるなど、環境への負荷軽減にも貢献しています。

[静岡工場] 生産(原体)



農業原体を主体とした化合物生産拠点である静岡工場では、医薬農中間体や高機能化成品などさまざまな分野で用いられる化合物を生産し、世界に供給しています。また、排水中の有機物を分解、除去処理する「活性汚泥処理設備」や、廃水や廃油を瞬時に酸化して完全燃焼ガスに分解する「液体焼却処理設備」(右上)などの廃棄物処理設備を有し、クリーンな生産を実現しています。

[小牛田工場] 生産(製剤)



[龍野工場] 生産(製剤)

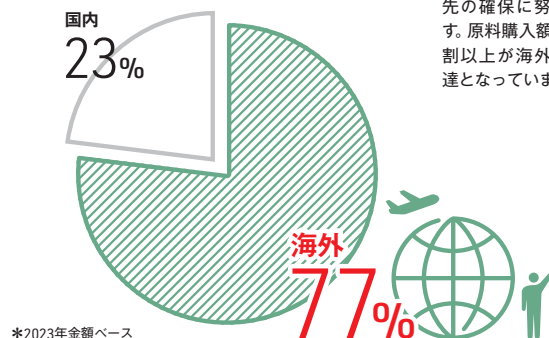


製剤拠点としては東日本に小牛田工場(宮城県)、西日本に龍野工場(兵庫県)を設置。2022年10月には龍野工場に高性能で環境負荷の低い顆粒水和剤用プラントが完成し、さらなる品質確保と環境安全に取り組んでいます。

調達

[グローバルサプライチェーン] 調達

原料の調達先比率*



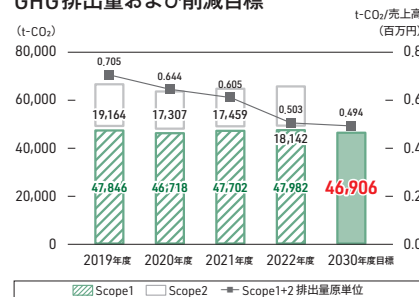
*2023年金額ベース

当社では、原料価格変動の影響を軽減するため、グローバル視点で調達先の確保に努めています。原料購入額のうち、7割以上が海外からの調達となっています。

生産(原体)

[環境負荷の低減] 生産(原体・製剤)

GHG排出量および削減目標



※GHG算定対象会社(7社)
クミアイ化学工業、理研グリーン、イハラニッケイ化学工業、ケイ・アイ化成、イハラ建成工業、尾道クミカ工業、クミカ物流

当社グループでは、工場等の設備投資によるエネルギーの効率化や再生可能エネルギー由来のCO₂フリー電力の活用などを通じ、GHG排出量削減に取り組んでいます。2030年度までに、当社グループ主要7社のGHG排出量*を2019年度比30%削減することを目標としています。

*Scope1+2

生産(製剤)

Voice



自動化が進んでも、
チームワークが大切です

生産部門(静岡工場)

長年の研究開発を経て生まれた製品を安定的に生産するため、工場と研究所の橋渡し役を務めています。目指した品質を担保しつつ効率よく生産するには、機械や設備任せでは不十分で、現場との密なコミュニケーションが欠かせません。日頃から積極的に対話するようにしていると「あ、チームの意識が1つになったな」と感じられる瞬間があり、そんなときに大きな喜びを感じます。

営業・販売

除草剤・殺菌剤・殺虫剤など数百種類の製品を取り揃え、きめ細かな販売網を有する当社の営業・販売活動は、まず「お客様の声を聴く」ことから始まります。専門知識を有する販売員・技術普及員を全国11拠点に配置し、JA並びに各都道府県の農業試験場や農業改良普及センター等と連携して、現場の要望に適した農薬の提案や現地での実証実験、および農薬の適正使用の啓発などのアフターフォローを展開しています。また、日々のコミュニケーションから得られた新たなニーズや農業情勢の変化などの情報は研究開発部門にフィードバックし、新農薬の企画・開発につなげています。

また、世界50か国以上に向けて自社開発剤や有効成分の販売を行っている当社では、海外拠点においても実際に現地で普及活動やアフターフォローを実施。顧客のニーズを正しく理解し、環境に即した的確な使用法を提案することで、市場の開拓を進めています。

【国内外の拠点網】 普及活動 現地実証 販売・物流 アフターフォロー



【販売員・技術普及員の活動】 普及活動 現地実証 アフターフォロー



お客様への提案にあたっては、現地圃場における展示試験の設計・実施・調査なども行います。販売後に正しい使用方法を指導したり、クレームに迅速に対応したりといったアフターフォローも重要な仕事です。

普及活動

現地実証

販売・物流

アフターフォロー

【スマート農業の実証試験】 普及活動



当社ではドローンメーカーと協働し、新しい散布技術の確立に取り組んでいます。ドローンの他にも、ラジコンボートや水田用自動給水装置など省力化につながるツールと自社製剤の組み合わせにより、スマート農業を促進していきます。

【非農耕地向け製品の販売】 販売・物流



ゴルフ場や高速道路、線路などの非農耕地向け製品の販売も子会社の理研グリーンを通して行っています。農薬を適切に使用し、雑草の管理を行うことで、美しい景観や安全な環境を確保することができます。

Voice



**大切なのは、「聴く」こと。
それが私のモットーです**

営業部門(国内担当)

農薬製品は、あらゆる環境、あらゆる使い方においても安全・安心でなければいけません。その意味で、日頃から関係機関や生産者の皆様とやり取りさせていただいている私たちの役割は、「売る」こと以上に「聴く」とことと捉えています。常に生産者の方に寄り添い、その言葉に耳を傾けることで、クミカの研究開発を下支えする。そんな思いで日々、担当地域に足を運んでいます。



世界の食料問題に関わっている実感があります

営業部門(海外担当)

実際に私自身が海外の生産者や販売店を訪れ、直接製品をアピールしたり、技術指導をしたりしています。現地の生産者から「クミカ製品をもう10年も使っている」と伺い、感激したのは良い思い出です。国内以上に多様なニーズがあり、困難な場面もありますが、世界の食料生産力向上に直接関わっている実感があり、非常にやりがいを感じています。

広がるクミカの 化成品と受託事業

農薬開発の過程で培った製造技術から生まれる化成品は、高分子材料や電子材料、医薬品等の原料として私たちの生活のさまざまなシーンで利用されています。

 コーポレートサイトに関連記事があります。

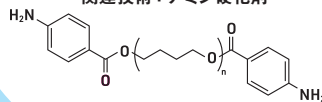
https://www.kumiai-chem.co.jp/products/chemical_products/familiar/



競技場・ テニスコートの床面素材

陸上競技場のトラックやテニスコートの床面、ジェットコースター用車輪などの部品には、アミン硬化剤類が使われており、安全性・耐久性・快適性の向上に一役買っています。

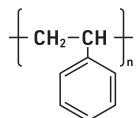
関連技術：アミン硬化剤



高速道路の 建築素材

軟弱地盤上や地すべり地の盛土など、荷重軽減や土圧低減を図る必要のある場所に使われる発泡スチロール。大型建設機械不要、環境負荷低減、低工期・低工費とメリットが多く、注目される工法で、多くの場面で使われています。

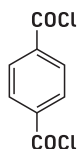
関連技術：発泡スチロール(EPS)



車のタイヤ

高機能繊維はタイヤや航空機の部品、消防服、ケーブルなどに使用されます。難燃性や強靭性、耐薬品性を備えたアミド繊維もその一つ。高度な塩素化技術を用いて製造するテレフタル酸クロリドなどがその原料として使われています。

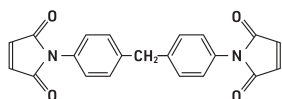
関連技術：テレフタル酸クロリド



スマートフォンの 基板

電子基板や航空機の部材などに用いられる高機能性樹脂の原料を製造。耐熱性や強度(高弾性)などを目的に応じて調整することで、使用用途に沿った製品を実現できます。

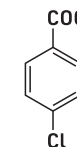
関連技術：ビスマレイミド



胃腸薬の中間体

安全な医薬品の製造を実現する高品質な化学品を製造しています。例えばパラクロロベンゾイルクロリドは胃腸薬の原料として使われており、安全で健康的な生活の維持に貢献しています。

関連技術：パラクロロベンゾイルクロリド



作りたいを叶える受託事業

クミアイ化学では、農薬事業で培った技術力を活かして化成品の受託事業を行っています。お客様のご要望に応える製品と、その製品を安全かつ低コストで製造するための製造フローをご提案します。社内外のネットワークを最大限に活用し、多様化するご要望にスピーディーに対応いたします。

クミカのミライ ~“創造する科学”が描く未来生活

“いのちと自然を守り育てる”をテーマにクミアイ化学が目指す、安全・安心で豊かな社会の一端をご覧ください。

Imagine File 01

科学の力で世界の課題を解決。 だれも食に困らない世界へ

世界には、十分な栄養を得ることができず苦しんでいる人たちがたくさんいます。クミカがこれまで研究し続けてきた農薬は、農作物の収穫量増加や安定生産に欠かせない必需品。私たちは、これからも世界に目を向けた研究開発・製造・販売を継続し、安全で効果が高い農薬を生み出し続けていきます。目指すのは、だれも食に困らない世界です。



Imagine File 02

農作物の経済価値を高め 農業に携わる人の生活を 豊かにする

農作物の収穫量や品質の安定化を支える農薬ですが、防除すべき害虫、病気、雑草の種類は千差万別。農薬が効かない「抵抗性病害虫・雑草」が出現するケースもあります。これらに対応するためクミカでは、国内外のネットワークを駆使して情報を集め、膨大なフィールドワークと基礎研究を続けています。農作物の経済価値を高め、農業に携わる人たちの生活を豊かにすること。それがクミカの夢です。

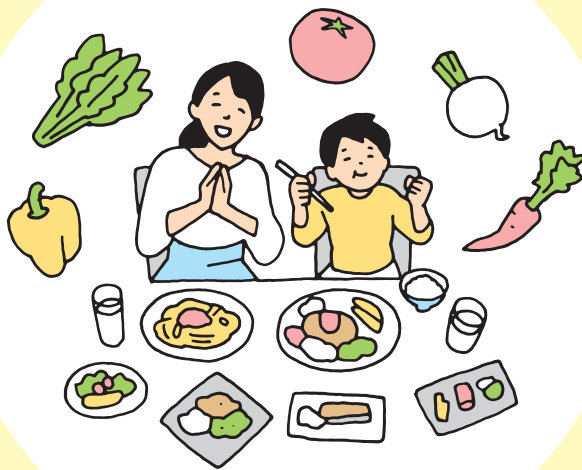


Imagine File 03

作業負担を軽減し、 理想のワークライフバランスを実現。 農業を子どもたちに 大人気の職業に

高齢化や出生率低下が進む日本において、就農人口の減少は喫緊の課題です。クミカは、農作業の負担を軽減する新農薬の開発、農業用ドローンや自動給水装置などを活用したスマート農業システムの構築を通じ、こうした社会課題の解決に貢献していきます。その先にはいつか、農業が子どもたちに大人気の職業になっている未来が待っているかもしれません。





Imagine File 04

植物や動物を介した 病気を減らし、 あらゆる人に 健康で豊かな生活を

いつでも健康で新鮮な野菜や果物が手に入り、安全かつ安心して食べることができるのは、農薬が徹底した安全基準のもと、有害な害虫や病気を防除しているからです。クミカは農薬のさらなる技術革新を進めることで食の安全を守り、あらゆる人が健康で豊かな生活を送ることができる社会を実現します。



Imagine File 06

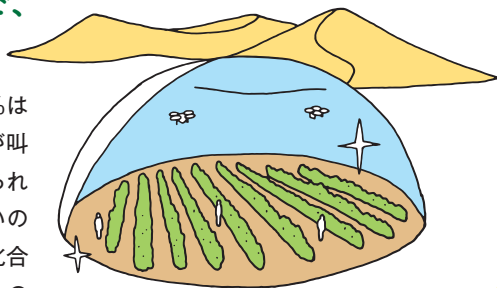
個の幸せを、 地球規模の幸せへ。 誰もが働きやすい職場をつくる

多くの人財の知識やアイデアの融合なくしては進められない企業活動。社員個々の幸せを高め、社会全体の幸せへとつなげるクミカのスローガン「『夢』と『幸せの三角形』」も、そうした人財を重視した経営に取り組む中から生まれた考え方です。人財を起点にイノベーションを加速する新たな企業のかたちを、私たちは目指しています。

Imagine File 05

新たな化合物の発見や バイオスティミュラント*の応用で、 砂漠一面をオアシスに

増え続ける世界の人口に対し、陸地の67%は農業に適さない土地と言われ、食料危機が叫ばれています。そうした土地で作物を育てられれば……という夢を実現するかもしれないのが、土壌や作物の性質を変化させる新規化合物の発見や、乾燥や高温などの環境負荷への耐性を高めるバイオスティミュラント等の応用です。そしてこれらは、研究開発型企業であるクミカの得意分野。この発見が地球を救うかもしれないという思いを胸に、日々の研究に取り組んでいます。

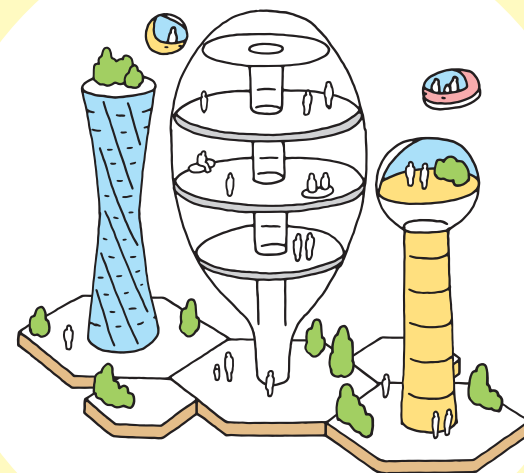


*バイオスティミュラント
植物やその周辺環境が持つ自然力を活用することにより、
植物の健全性や耐性を高めるさまざまな物質や微生物のこと

Imagine File 07

ものづくりを支える 化成品技術を深化させ、 夢の未来生活を実現

長年の農業開発で培った技術を活かし、さまざまなものづくりを支えているクミカの化成品事業。未来の生活では、これまでの常識を覆すような画期的な製品やサービスが登場しているはず。そこで求められるものづくりに応えるため、私たちは地道な基礎研究を重ね、広範な技術の開発に取り組んでいます。



サステナブルな未来に貢献する“進化する農薬”

未来社会において農薬が果たすべき役割とは何か。私たちクミアイ化学はこんなビジョンを描いています。

深刻化する世界の食料問題

世界の食料問題は深刻化の一途をたどり、飢餓人口は約7億人ともいわれている現在。これを支える農業についても、気候変動による環境へのダメージ、耕作地拡張の限界、農業従事者の減少による生産基盤の脆弱化などが指摘されています。国連で採択された持続可能な開発のための目標「SDGs」にも飢餓や気候変動、自然環境に関する目標が盛り込まれており、今や人類が直面する喫緊の課題といえます。日本政府も2021年に持続可能な食料システムを構築するための「みどりの食料システム戦略」を打ち出し、環境に配慮しつつ食料問題を解決するために「2050年までに農薬の使用量をリスク換算で50%低減する」という目標を設定しました。このように、限られた農地の中で収量・生産性・安全性の向上を図るためには、低リスク・高活性の農薬が必要であることが示されています。

こうした課題の解決は、農薬を主要事業の1つとする私たちが目指す目標であり、すでにさまざまな事業戦略に盛り込まれています。

自然から生まれ、科学の力で進化を遂げた農薬

そもそも農薬は、病気、害虫、雑草を防除することが最大の目的です。植物は本来、有害物質や苦味成分などを活用し、自らの身を守る防衛システムを備えています。食用として品種改良されていく過程で、その防衛力が低下。これを補うために人類は、古代エジプトの時代からオリーブオイルや硫黄などを利用してきました。そうした天然の防除素材を、科学の力で進化させたのが現代の農薬です。天然素材の場合、人や環境に対して有害な成分を含むケース

もありますが、農薬はそうした有害物質を排除し、特定の対象にだけ効果を発揮するよう綿密に設計されてきました。

現代においては、法律で厳格な基準が設けられており、農作物、使用者、消費者、環境の4者すべてに対して害を及ぼさないと判断されたもののみが販売を許可されます。ともするとネガティブなイメージを持たれる農薬ですが、リスクを最小限に抑えつつ天然の防除素材以上の作用を示す化学技術の結晶が、農薬なのです。

農薬を起点に広がる豊かな社会

効果や生物・環境に対する安全性などの極めて高い水準をクリアした農薬を開発するには、一般的に約10年、250~300億円の研究・開発費がかかるといわれています。有用成分の発見は16万種の化合物の中から1種を見つけ出すような果てしない取り組みであるからです。

今後は、複雑化・高度化する社会課題の解決に向け、これまで以上に技術開発力を高めることが求められるでしょう。そこで私たちは、最新設備を備えた研究所「Shimizu Innovation Park / SHIP」の設置や微生物・ICT活用に独自の知見を持つ企業の子会社化など研究基盤の強化に注力。病害虫や雑草を防除する新薬の開発はもちろんのこと、植物自身の抵抗性を高める新化合物の研究、ICTやAIを活用した農作業の効率化など、多方面にイノベーションを加速しています。

世界的な食料問題の解決に寄与する可能性を秘めた、農薬。そのトップイノベーターである私たちは、研究開発を通じて世界の農業、ひいてはサステナブルな社会全体を支える責任があると考えています。クミアイ化学が掲げる理念「いのちと自然を守り育てる」には、そうした思いが込められているのです。



企業情報

●商号

クミアイ化学工業株式会社
(KUMIAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.)

●本社所在地

〒110-8782
東京都台東区池之端一丁目4番26号

●電話番号

03-3822-5036

●設立年月日

1949年(昭和24年)6月20日

●資本金

4,534百万円

●上場証券取引所

東京証券取引所 プライム市場

●事業内容

殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売
有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の製造・販売

●主な拠点

〈事業所〉

本社
札幌支店
東北支店
東京支店
長野営業所
新潟営業所
名古屋支店
静岡営業所
大阪支店
中四国支店
松山営業所
九州支店

〈研究拠点〉

化学研究所 (ShIP)
プロセス化学研究センター
製剤技術研究センター
創薬研究センター
生物科学研究所
農薬研究センター
生命・環境研究センター

〈生産拠点〉

静岡工場
小牛田工場
龍野工場

〈国内グループ会社〉

株式会社理研グリーン(農薬、産業用薬剤等の製造販売)
イハラニッケイ化学工業株式会社(有機中間体の製造販売)
ケイ・アイ化成株式会社(有機中間体・産業用薬剤等の製造販売)
イハラ建成工業株式会社(総合建築業、化成品の製造販売)
尾道クミカ工業株式会社(農薬等の製造販売)
良地産業株式会社(農薬等の販売)
日本印刷工業株式会社(各種印刷物の製造販売)
株式会社クミカ物流(運送・倉庫業)
浅田商事株式会社(農薬等の販売)
株式会社ネップ(環境保全・人材派遣)
アグリ・コア株式会社(農作物の生産、栽培技術ライセンスおよびバイオ関連事業)
株式会社GRA(農作物の生産販売、農産技術の研究開発、新規就農者の支援事業等)

〈海外グループ会社〉

K-I CHEMICAL U.S.A. INC.(農薬等の輸出入)
K-I CHEMICAL EUROPE SA/NV(農薬等の輸出入)
K-I CHEMICAL DO BRASIL LTDA.(受託業務)
Iharanikkei Chemical(Thailand) Co., Ltd.(有機中間体の製造・販売)
PI Kumiai Private Ltd.(農薬等の製造販売)
Asiatic Agricultural Industries Pte. Ltd.(農薬等の製造販売)
KUMIKA KOREA CO., LTD.(農薬の研究開発及び輸入)
組合化学貿易(上海)有限公司(農薬等の輸出入)

最新情報はコーポレートサイトをご確認ください。



コーポレートサイト

<https://www.kumiai-chem.co.jp>



クミアイ化学工業株式会社

本社：〒110-8782 東京都台東区池之端1-4-26 TEL：03-3822-5036

KUMIAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

4-26, Ikenohata 1-chome, Taito-ku, Tokyo 110-8782, Japan +81-3-3822-5036

コーポレートサイト：<https://www.kumiai-chem.co.jp>

